

令和5年度全国学力・学習状況調査

各学校での分析と校内研修での活用について

【教科に関する調査編】

熊本県教育委員会

- 1 各学校での分析と取組**
 - (1) 分析の意義とポイント**
 - (2) 分析の方法**
 - ① 問題分析から授業改善へ**
 - ② 正答率等の結果から授業改善へ**
 - ③ 同一集団の経年変化から授業改善へ**

- 2 実践編「校内研修での活用」**

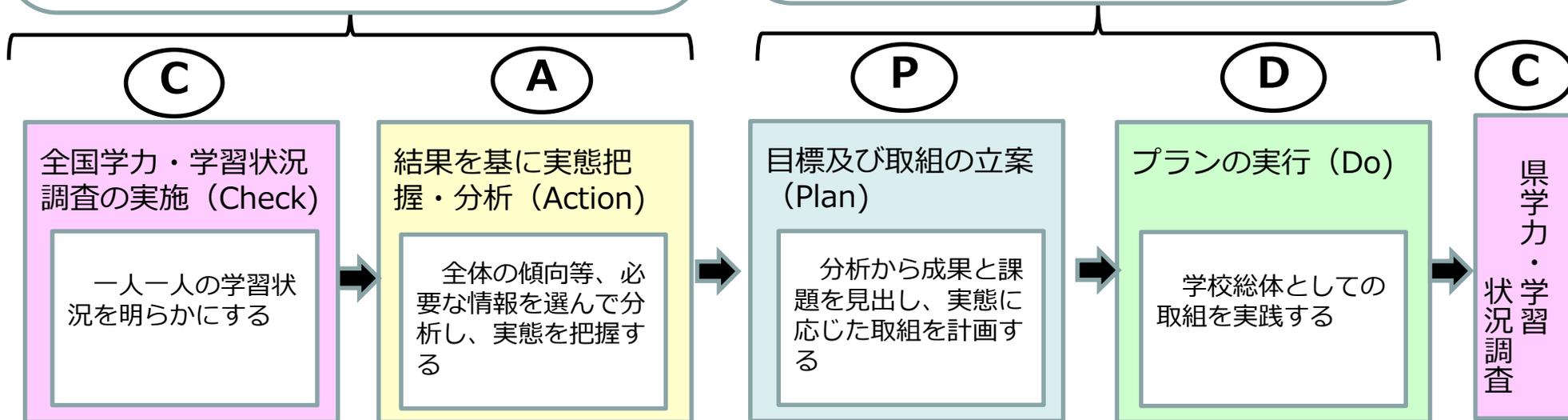
1 各学校での分析と取組

1 - (1) 分析の意義とポイント

<分析の意義>

◇学力、学習状況調査の結果から、各学校の授業や学びの保障の取組状況が把握できます

◇調査結果を分析し、共有することで、課題解決に向けた授業改善が充実します



結果分析から、自校の「熊本の学び推進プラン」や「『熊本の学び』アクションプロジェクト」に関する取組の成果と課題を見付け、課題改善に向けた取組計画の立案と実践を行いましょう。

1 - (1) 分析の意義とポイント

<分析のポイント>

◇各学校での分析と校内研修での活用について
【教科に関する調査編】

◇各学校での分析と校内研修での活用について
【質問紙調査編】

全国学力・学習状況調査の**解説資料**と**報告書**が分析と改善の拠り所となります。



調査終了後、速やかに学力や学習の状況、課題を把握し、学習指導の改善・充実等に取り組む際に参考となる資料



結果提供後、設問ごとの解答状況、成果や課題の有無、特徴的な解答の分析等、学習指導の改善・充実を図る際のポイントを示した資料

※ 質問紙においては、経年変化や学力とのクロス分析を掲載

※ 「解説資料」及び「報告書」は下記のURLよりダウンロードできます（R5よりデータにて提供）

「解説資料」 : <https://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm>

「報告書」 : <https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku>

◇教科に関する調査の結果から授業改善へ

方法①：問題分析から授業改善へ

方法②：正答率等の結果から授業改善へ

方法③：同一集団の経年変化から授業改善へ

※ 本校の重点取組(活用)シートと併せて活用する。

※P7参照

まずは、課題改善に向けた重点取組と各学校で使用する
重点取組（活用）シートを確認しましょう！



課題の改善に向けた重点取組及び参考指標

目標：本県の子供たち誰一人取り残すことなく、最大限に学びを保障する

【次の検証(R5県学調・R6全学調)へ向けて、学校総体で重点的に取り組むこと】

重点取組

●児童生徒を「学びの主体」とするための指導の充実

①授業における主体的な学びを促す学習活動の充実

- 単元全体を見通して、「自分で考える」「自分の考えを工夫して発表する」「自分の学びを振り返る」等の自ら取り組む機会を確実に設定すること。
- 授業において、児童生徒が自分の学びを自覚したり、実感できたりするよう、児童生徒の学びの成果を具体的に伝えること。

②家庭学習における主体的な学びの充実

- 計画的に家庭学習に取り組むことができるよう、学習内容・方法について教師が具体例を挙げながら、児童生徒が自分で選択したり、判断したりして決めるなどの指導を丁寧に行うこと。
- 家庭学習においても、児童生徒が自分の学びを自覚したり、実感できたりするよう、児童生徒の学びの成果を具体的に伝えること。

➡児童生徒が学びを実感できる取組を通して、「学びの主体」に関する項目(参考指標等)の向上を図る

●各教科における課題の克服と理解度の向上 【右枠参照】

①課題である問題の確認とその克服

- (継続して)課題である問題の解答状況を把握し、課題が見られる場合は、その克服に向け、本課が提供する「授業改善のポイント」、「類似問題」等を参考に、その克服を図ること。

②定着確認の徹底

- 各教科において、単元(授業)ごとに最低限習得すべき事項が身に付いているか確認すること。
- 児童生徒が分かる喜びを実感できるように、粘り強く指導すること。

➡児童生徒が分かる意識できる取組を通して、各教科の内容の理解度に関する項目(参考指標)の向上を図る 【右枠参照】

参考指標

[R5熊本県学力・学習状況調査及びR6全国学力・学習状況調査において検証]

【参考指標1】児童生徒質問紙
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

【参考指標2】児童生徒質問紙
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。

【参考指標3】児童生徒質問紙
授業の内容はよく分かりましたか。(各教科において)

各教科の平均正答率

状況の向上を目指す

【課題の改善に向けた今後のスケジュール(例)】

★各学校で、必ず取り組むもの(時期は各学校で設定)

8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
結果分析と取組の共有 →校内研修に位置付け(県教委HP掲載資料「校内研修シート」の活用等) 	課題改善・指標達成に向けた実践 ★ 課題改善重点期間 →重点取組(上記)の確実な実践 ◎(継続して)課題である問題の克服 ◎定着確認の徹底 →授業での確実な実践 			県学調実施 ※参考指標における状況の向上 →実施後、課題の見られる問題については即座に対応	結果分析と指標達成に向けた重点取組の改善 →同一集団の「伸び」や指標の達成状況の確認、結果分析を踏まえた重点取組の改善と確実な実践 	★ 課題改善重点期間 →重点取組の確実な実践(フォローアッププリントの活用、R3・4全学調の課題改善状況の確認) →児童生徒自らの課題分析、課題克服のための取組の推進 		全学調実施 ※参考指標における状況の向上 

本校の重点取組

目標：本校の子供たち誰一人取り残すことなく、最大限に学びを保障する

（活用シート）

課題改善重点期間(月 日 ~ 月 日)

〔取組の検証〕



●児童生徒を「学びの主体」とするための指導の充実

①授業における主体的な学びを促す学習活動の充実

- 単元全体を見通して、「自分で考える」「自分の考えを工夫して発表する」「自分の学びを振り返る」等の自ら取り組む学習場面の確実な設定すること
- 授業において、児童生徒が自分の学びを自覚したり、実感できたりするよう、児童生徒の学びの成果を具体的に伝えること

P **D** <具体的取組(いつ・何を・どのように把握)>

②家庭学習における主体的な学びの充実

- 計画的に家庭学習に取り組むことができるよう、学習内容・方法について教師が具体例を挙げながら、児童生徒が自分で選択したり、判断したりして決めるなどの指導を丁寧に行うこと
- 家庭学習においても、児童生徒が自分の学びを自覚したり、実感できたりするよう、児童生徒の学びの成果を具体的に伝えること

P **D** <具体的取組(いつ・何を・どのように把握)>

●各教科における課題の克服と理解度の向上

①課題である問題の確認とその克服

- (継続して)課題である問題の解答状況を把握し、本課が提供する「授業改善のポイント」、「類似問題」等を参考に、その克服を図ること

A <結果を基に実態把握・分析>

完了時期()

P <目標及び取組の立案>

完了時期()

D <プランの実行>

実行期間()

②定着確認の徹底

- 各教科において、単元(授業)ごとに最低限習得すべき事項が身に付いているか確認すること
- 児童生徒が分かる喜びを実感できるよう、粘り強く指導すること

P **D** <具体的取組(いつ・何を・どのように把握)>

C 【参考指標1】児童生徒質問紙 学校:肯定値(全国差)
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

県・小学校:75.6%(全国差-3.2)、中学校:72.7%(全国差-6.5)

学校の現状 R5全学調結果 ()

R4県学調結果() → R5県学調目標値()

R5県学調結果() ※前年度からの「伸び」()

【参考指標2】児童生徒質問紙 学校:肯定値(全国差)
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。

県・小学校:68.5%(全国差-2.2)、中学校:51.3%(全国差-3.7)

学校の現状 R5全学調結果 ()

R4県学調結果() → R5県学調目標値()

R5県学調結果() ※前年度からの「伸び」()

【参考指標3】児童生徒質問紙 教科:肯定値(全国差)
授業の内容はよく分かりますか。(各教科において)

県・小学校:国語:86.6%(+0.9)、算数80.5%(-0.7)

県・中学校:国語:75.9%(-4.1)、数学66.7%(-6.6)、英語56.8%(-7.1)

学校の現状:

R5全学調(国),(算・数),(英)

R4県学調結果 (国),(算・数),(英)

R5県学調目標値(国),(算・数),(英)

R5県学調結果 (国),(算・数),(英)

※前年度からの「伸び」(国),(算・数),(英)

各教科の平均正答率
→前年度(R4県学調)からの「伸び」

状況の向上を目指す

【問題分析の視点】 ◇問題の分析は、授業改善につながります。

- ① 「題材」に着目する
- ② 「構成」や「配列」に着目する
- ③ 「問い方」に着目する
- ④ 「解答類型」に着目する
- ⑤ 過去の学力・学習状況調査の類似問題に着目する

次ページから、今年度及び昨年度までの全国学力・学習状況調査問題の問題等を例に、①～⑤の視点から分析し、授業改善のポイントを示します。

1 - (2) 分析の方法①「問題分析から授業改善へ」

①「題材」に着目する

- ・ 日常生活や他教科等と関連するものを扱っている
- ・ 対話的な学びの場面を扱っている
- ・ ICTを活用している場面を扱っている



授業改善に生かすポイント

○本問題のように、日常生活や他教科と関連した学習活動を位置付けることで、児童生徒が、学んだことの広がりや深まりを実感することにつながります。

この問題の他にも、全国学力・学習状況調査の問題には、授業改善につながるたくさんのヒントがあります。



R5年度中学校3年生国語より

① 南さんは、総合的な学習の時間に、「社会で動
情報を集めていた南さんは、電化製品を開発して
ました。次の「インターネットの記事」、「インテ
なさい。」
えなさい。」
「インターネットの記事」

製品開発にかける思い

電化製品を開発するに当たって、
最も大事にしているのは、安全性
です。お子様からお年寄りまで、
どの年代の方も安心して使用で
きる製品の開発を常に心がけてい
ます。しかし、安全性だけでなく、
デザイン性や利便性も大事にしたいと考えています。
現在、私は、電気ケトルの開発を担当しています。

製品開発部
星野主任

総合的な学習の時間と関連して「事
前にインターネットの記事を読んでイ
ンタビューの準備をする」という場面
設定

〈インタビューの目的〉
星野さんの製品開発に対する思いを聞き、自分の考え
の参考にする。

〈インタビューを通して知りたいこと〉
・「安全性だけでなく、デザイン性や利便性も大事にし
たい」と考えるのはどうしてか。
・「安全性を保ちつつ、デザイン性や利便性も兼ね備え
た製品を開発するのは難しい」とあるが、具体的に
どのような難しさがあるのか。
・社会で働く上で何が大切だと思うか。

学習に取り組んでいます。インターネットで
会社を訪問して星野さんにインタビューをし
「インタビューの様子」を読んで、あとの問いに答
「インタビューの前に準備したメモ」

中国 - 1

1 - (2) 分析の方法①「問題分析から授業改善へ」

③「問い方」に着目する

- ・ 着目させたい部分を焦点化した具体的な問い方
- ・ 一度にいくつもの指示や発問を行わず、1文に1つの指示や発問



授業改善に生かすポイント

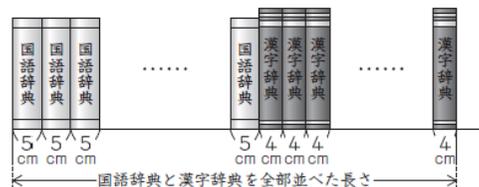
- あいまいな発問にせず、教科等の見方・考え方を働かせるような丁寧で具体的な発問にしましょう。
- 児童生徒の考えや発言からポイントとなる部分を取り上げて発問することで、深い学びにつながります。

R5年度小学校6年生算数③(1)より

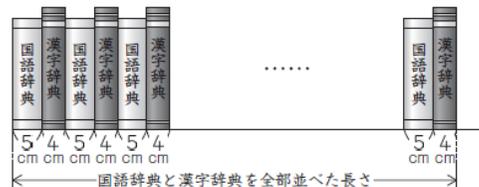
(1) わかなさんの学級では、国語辞典と漢字辞典を1人1冊ずつ使えるように、ロッカーの上に並べることにしました。そこで、並べる前に、国語辞典と漢字辞典を全部並べた長さが、どのくらいになるのかを考えています。国語辞典1冊の厚さは5 cm、漢字辞典1冊の厚さは4 cm、学級の人数は28人です。



国語辞典と漢字辞典に分けて並べたとして考えます。



1人分ずつ並べたとして考えることもできます。



わかなさんの並べ方でも、あきらの並べ方でも、どちらも同じ長さになるはずですね。

わかなさんとあきらは、国語辞典と漢字辞典を全部並べた長さが、何 cm になるのかを計算で求めようと考え、それぞれ自分の並べ方をもとにして、次のような式を書きました。

【わかなさんの式】

$$5 \times 28 + 4 \times 28$$

【あきらの式】

$$(5 + 4) \times 28$$

【わかなさんの式】の「 5×28 」と、【あきらの式】の「 $5 + 4$ 」は、何を表していますか。

下のア から エ までの中から1つずつ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 国語辞典 28 冊を並べた長さ
- イ 漢字辞典 28 冊を並べた長さ
- ウ 国語辞典 1 冊の厚さと漢字辞典 1 冊の厚さを合わせた長さ
- エ 国語辞典 28 冊と漢字辞典 28 冊を並べた長さ



それぞれが考えた式から、着目させたい部分を焦点化して発問しています。このように、具体的な問い方をするすることで、子供たちは考えを広げたり深めたりすることができます。

1 – (2) 分析の方法①「問題分析から授業改善へ」

④「解答類型」に着目する

- ・ 誤答を予想



授業改善に生かすポイント

- 子供たちの反応やつまずきを予想し、指導の改善を図りましょう。
- 1時間のゴールや単元のゴールを明確にしましょう。

報告書では、設問毎に「解答類型と反応率」「分析結果と課題」等が記載されており、子供たちの解答状況やつまずきの理由等が分析されています。

設問二

趣旨

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
2	1 1 と解答しているもの	4.6	
	2 2 と解答しているもの	6.2	
	3 3 と解答しているもの	67.6	◎
	4 4 と解答しているもの	20.0	
	99 上記以外の解答	0.1	
	0 無解答	1.4	

2. 分析結果と課題

○ 令和3年度【小学校】国語²三の記述式の問題（正答率34.6%）において、「目的に応じて、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けること」に課題があると指摘している。これに関連して、本設問では、【資料1】と【資料2】の文章と図などを結び付けて分かることを選択する問題を取り上げた。本設問の正答率は67.6%であった。今回の結果から、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに引き続き課題があると考えられる。

○ 解答類型4は、「筋力を高める運動」の例が「腹筋運動」と「腕立てふせ」であることを捉えることはできたが、「筋力を高める運動」が「瞬間的に大きな力を出す」ものであることを捉えることができなかったと考えられる。この中には、【資料1】を読まずに【資料2】だけを読んで判断してしまい、【資料1】と【資料2】とを結び付けて必要な情報を見付けることができなかった児童がいたと考えられる。



1 - (2) 分析の方法①「問題分析から授業改善へ」

⑤ 過去の学力・学習状況調査の類似問題に着目する

授業改善に生かすポイント

- 題材や問い方を授業づくりの参考にしてみましょう。
- 問題の定着率を比較し、指導の在り方を再確認しましょう。

R4年度 全国学力・学習状況調査問題(中学校3年生国語)より

R3年度 県学力・学習状況調査問題(中学校1年生国語)より

スマート農業には、作業を自動化すること以外の効果もあるようだ。

【コメントの一部】

上野
他にどのような効果があるのかを具体的に書いた方がよいのではないのでしょうか。

中村
私も同感です。スマート農業の効果を書き加えることで、小林さんが、自分の考えの根拠として示しているこの段落の内容が分かりやすくなると思います。

三 小林さんは、上野さんと中村さんからの「コメントの一部」を踏まえて、で囲まれた「スマート農業には、作業を自動化すること以外の効果もあるようだ」のすぐあとに、スマート農業の効果を書き加えることにしました。あなたならどのように書きますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

条件1 「農林水産省のウェブページにある資料の一部」から必要な情報を引用して書くこと。引用する部分は、かきかこ()「」で囲むこと。

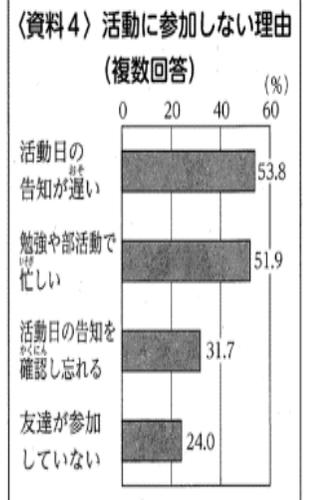
条件2 「例えば、」に続けて書くこと。

文章の一部について、意見や感想、資料を基に条件に沿って書く。

4. 今後の対応
美化委員会では、校内アンケート調査の結果をもとにして、これまでのやり方を改善します。「活動に参加しない理由」を示した〈資料4〉から、ことが分かります。そのため、今後、美化委員会では、。こうすることで、活動に参加する生徒が増え、美化活動がより活発になるとよいと考えています。

渡辺さんの考え
〈資料4〉の「活動に参加しない理由」の中には、美化委員会のやり方による原因があるものがある。それを一つ明確に挙げよう。そして、その改善案を具体的に書こう。

条件1 「渡辺さんの考え」をもとにして書くこと。
条件2 には、〈資料4〉から読み取ったことを、具体的に数値を挙げて一つ書くこと。
条件3 には、〈資料4〉から読み取ったことを解決するための改善案を、自分で考えて具体的に書くこと。



1 – (2) 分析の方法①「問題分析から授業改善へ」

◇「問題分析の視点」は、**定着問題**や**定期考査の作成**にも役立ちます。

- ① 「題材」に着目する
- ② 「構成」や「配列」に着目する
- ③ 「問い方」に着目する
- ④ 「解答類型」に着目する
- ⑤ 過去の学力・学習状況調査の類似問題に着目する

定着問題や定期考査などの作成の際には、「題材」「構成」「配列」「問い方」を参考にすることができます。

また、調査問題を、該当学年での定着確認やレディネステストに活用することも考えられます。

定着が十分でない場合は、分かる喜びが実感できるよう、身に付くまで粘り強く指導していきましょう。

1 – (2) 分析の方法②「正答率等の結果から授業改善へ」

◇正答率等の分析は、授業改善につながります。

【分析の流れ】

- ① 成果と課題を洗い出す
- ② 学校全体で課題となるような「問題」を抽出する
- ③ ②の問題について、課題改善のための取組を考える

次ページから、小学校算数を例に、①～③の分析の流れを示しています。

①成果と課題を洗い出す視点

・ **正答率**に着目する

まずは、正答率を県や全国と比較してみましょう。正答率の高さから、成果と課題を見付けていきましょう。

・ 「**内容や領域**」、「**評価の観点**」、「**問題形式**」に着目する

成果や課題が、ある内容や領域、評価の観点、問題形式に特徴的に現れてくることもあります。そこに着目すると、各学校や教師のそれまでの「取組」や「強み」、「弱み」を知ることができます。

・ **無解答率**に着目する

正答率が高くても、無解答率が高い場合があります。逆に正答率が低くても、無解答率も低い（子供たちが何かしら、記述しようとしている）こともあります。

・ **反応率**に着目する

解答類型から「反応率」を見てみると、子供たちの誤答の状況やつまりきやすさが見えてきます。正答率が高くても、誤答が偏った反応を示している問題は、課題と捉えることができます。



今年の3年生数学は、「図形」の領域の問題がよく解けていた。数学担当の〇〇先生の「図形」の授業に、授業改善のヒントがあるな。



小学校国語の「4二」の問題は正答率が高いけど、間違っって「3」と解答している子供も多いな。指導の方法を見直す必要があるな。

1 - (2) 分析の方法② 「正答率等の結果から授業改善へ」

R5年度 小学校6年生算数より

②課題となる問題の抽出

- ・ **正答率**に着目する

正答率が3割未満で、全国平均を下回っている。

- ・ **反応率**に着目する

解答類型から、「60」と解答する誤答の割合が33.2%であり、正答率よりも高い。また「40」という誤答が13.5%であり、無答は3.7%である。

授業改善に生かすポイント

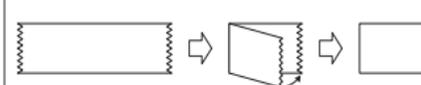
- 問題を実際に解いてみましょう。
- 提供されたデータの問題別(解答類型)調査結果と「報告書」の解答類型を参考に、子供のつまづきがどこにあるか確認しましょう。

●小学校算数2(3)(本県21.4%、全国24.9%、-3.5) 問題の一部

(3) えいたさんたちは、下のようにつくり方で三角形をつくります。

【えいたさんのつくり方】

① 下の図のように、テープを折って、下の直線が重なるようにします。



② 右の図のように、折り目はしを点ケとします。



③ 折って重ねたまま、点ケを通るなめの直線で切ります。



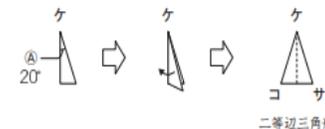
④ 開くと三角形ができました。



ゆいなさんとわたるさんは、【えいたさんのつくり方】の③の図で、下の④の角の大きさをそれぞれがう大きさにしました。



私は、④の角の大きさを20°にしました。切って開いた三角形ケコサは、二等辺三角形になりました。



私は、切って開いた三角形を正三角形にするために、④の角の大きさをゆいなさんとちがう大きさにして切りました。

切って開いた三角形を正三角形にするには、④の角の大きさを何度にするればよいですか。

答えを書きましょう。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
② (3)	1 30 と解答しているもの	25.3	◎
	2 60 と解答しているもの	33.2	
	3 15 と解答しているもの	0.2	
	4 120 と解答しているもの	0.9	
	5 45 と解答しているもの	7.7	
	6 90 と解答しているもの	4.8	
	7 20 と解答しているもの	3.1	
	8 40 と解答しているもの	13.5	
	99 上記以外の解答	7.7	
	0 無解答	3.7	

1 - (2) 分析の方法② 「正答率等の結果から授業改善へ」

③課題改善の取組

① **目指す子供の姿**を共有する。

- その問題が解けることによって、どんな力が身に付くのか
「目指す子供の姿」を考え、共有する。

② **目指す子供の姿**に向けた取組を実践する。

- 目指す子供の姿の育成に必要な**学習指導を、調査対象学年だけではなく全学年で行う。**

(例) 目的の図形を作るために、どのような操作をすればよいか、図形の意味や性質を基に、見通しを立てることができるように指導する。

(例) 全学調の問題を、該当学年の定着問題や定期考査の問題作成の参考とする。

※問題別調査結果を見ると、出題の趣旨や該当学年が分かります。

問題別調査結果



問題番号	問題内容	調査対象学年	正答率	達成率	達成率%	達成率%	達成率%	達成率%
1-1-1	図形の性質を調べるための操作を調べる	1-1-1	75	75	75.0	75.0	75.0	75.0
1-1-2	図形の性質を調べるための操作を調べる	1-1-2	75	75	75.0	75.0	75.0	75.0
1-1-3	図形の性質を調べるための操作を調べる	1-1-3	75	75	75.0	75.0	75.0	75.0
1-1-4	図形の性質を調べるための操作を調べる	1-1-4	75	75	75.0	75.0	75.0	75.0
1-1-5	図形の性質を調べるための操作を調べる	1-1-5	75	75	75.0	75.0	75.0	75.0
1-1-6	図形の性質を調べるための操作を調べる	1-1-6	75	75	75.0	75.0	75.0	75.0
1-1-7	図形の性質を調べるための操作を調べる	1-1-7	75	75	75.0	75.0	75.0	75.0
1-1-8	図形の性質を調べるための操作を調べる	1-1-8	75	75	75.0	75.0	75.0	75.0
1-1-9	図形の性質を調べるための操作を調べる	1-1-9	75	75	75.0	75.0	75.0	75.0
1-1-10	図形の性質を調べるための操作を調べる	1-1-10	75	75	75.0	75.0	75.0	75.0
1-1-11	図形の性質を調べるための操作を調べる	1-1-11	75	75	75.0	75.0	75.0	75.0
1-1-12	図形の性質を調べるための操作を調べる	1-1-12	75	75	75.0	75.0	75.0	75.0
1-1-13	図形の性質を調べるための操作を調べる	1-1-13	75	75	75.0	75.0	75.0	75.0
1-1-14	図形の性質を調べるための操作を調べる	1-1-14	75	75	75.0	75.0	75.0	75.0
1-1-15	図形の性質を調べるための操作を調べる	1-1-15	75	75	75.0	75.0	75.0	75.0
1-1-16	図形の性質を調べるための操作を調べる	1-1-16	75	75	75.0	75.0	75.0	75.0
1-1-17	図形の性質を調べるための操作を調べる	1-1-17	75	75	75.0	75.0	75.0	75.0
1-1-18	図形の性質を調べるための操作を調べる	1-1-18	75	75	75.0	75.0	75.0	75.0
1-1-19	図形の性質を調べるための操作を調べる	1-1-19	75	75	75.0	75.0	75.0	75.0
1-1-20	図形の性質を調べるための操作を調べる	1-1-20	75	75	75.0	75.0	75.0	75.0

出題の趣旨が分かります

該当学年が分かります

2 (3)	切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く	正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	<table border="1"> <tr><td>3</td><td>11</td></tr> <tr><td>ア</td><td>17</td></tr> <tr><td>6</td><td>11</td></tr> <tr><td>ア</td><td>17</td></tr> </table>	3	11	ア	17	6	11	ア	17	○
3	11											
ア	17											
6	11											
ア	17											

1 – (2) 分析の方法③「同一集団の経年変化から授業改善へ」

◇同一集団(学校、学年、学級など)の正答率等の経年変化から授業改善へとつなげましょう。

※個人一人一人の経年変化から、一人一人の課題克服に取り組みましょう。

【分析の視点】

①「伸び」に着目する

- ・現小学6年生が小学5年生の時の県学調と比べる。
- ・現中学3年生が中学2年生の時の県学調と比べる。

次ページからは、県全体の結果を例に、伸びに着目した分析を行い、授業改善のポイントを示します。

1 - (2) 分析の方法③ 「同一集団の経年変化から授業改善へ」

①「伸び」に着目する

- ・県学調の結果と比べる
- ・前回の全学調の結果と比べる



授業改善に生かすポイント

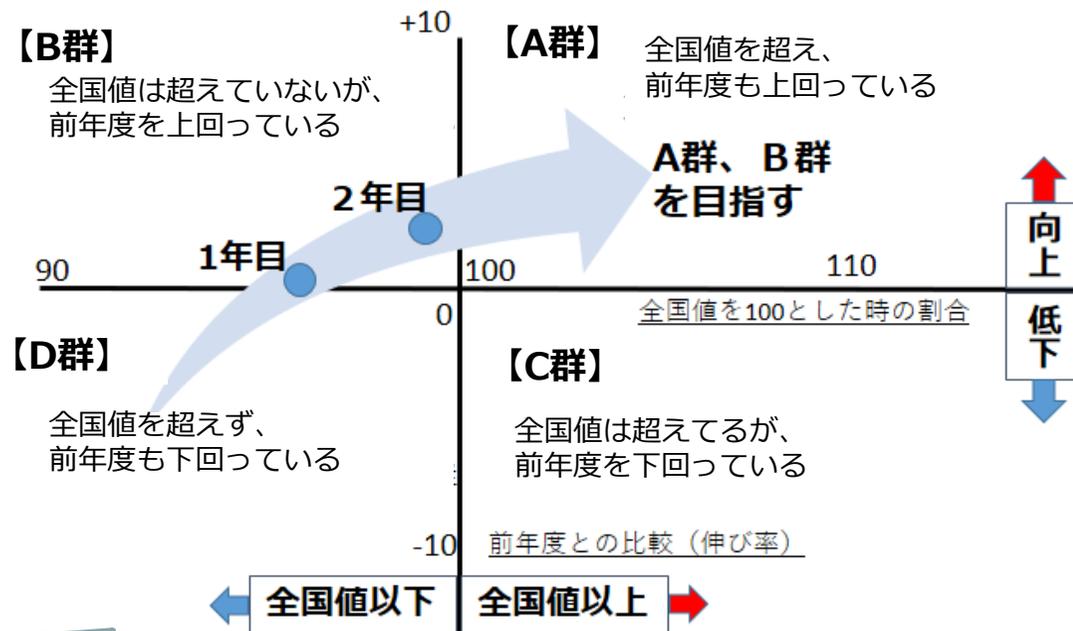
- 伸びの見られる教科や学年の取組を共有しましょう。
- 伸びが見られなかった教科や学年について、これまでの取組を振り返り、改善を図る。

◇同一集団の伸びに着目した分類

「熊本の学び」アクションプロジェクトハンドブックより一部修正

学校群の4分類
について

※横軸は、全国値を100とした時の割合、
縦軸は、前年度と比較した伸び率
(全国値を100とした時の割合の差)を算出。

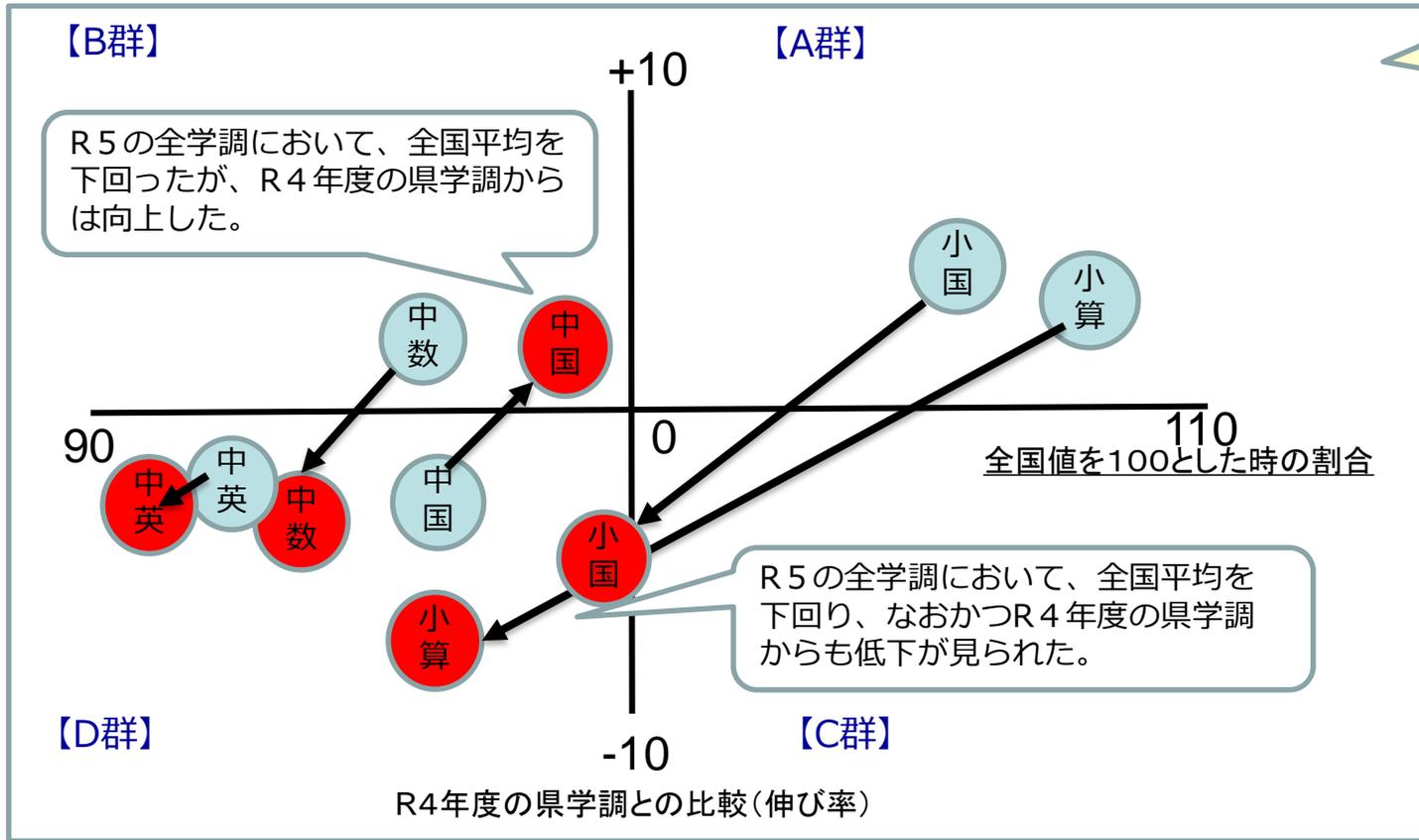


- ①令和4年度県学力・学習状況調査の結果から、自校が【A群】～【D群】のどこに位置するか確認する。
- ②令和5年度全国学力・学習状況調査の結果から、自校が【A群】～【D群】のどこに伸びたか確認する。

1 - (2) 分析の方法③ 「同一集団の経年変化から授業改善へ」

①「伸び」に着目する

◇本県の ● R4県学調 → ● R5全学調の「伸び」



【A、C群】 : 該当なし
 【B群】 : 中国、
 【D群】 : 小国、小算
 中数、中英

～分析～
 中国に改善が見られたが、それ以外の教科において伸びが見られない。課題克服の取組が十分ではなかったと考えられる。

～今後の取組～
 「熊本の学び」わくわくサークルにおいて「全学調の問題から考える授業改善」をテーマにした協議や授業についての意見交換を実施

※県学調と全学調では、全国の調査に参加している母体数は異なります。

1 - (2) 分析の方法③ 「同一集団の経年変化から授業改善へ」

①「伸び」に着目する

◇「伸び」の分類が難しい場合は、表で表す方法もあります。
本県のR4→R5の「伸び」

		国語 (全国平均を100としたときの県の割合)		算数・数学 (全国平均を100としたときの県の割合)		英語 (全国平均を100としたときの県の割合)	
		R4 県学調 (小5、中2時)	R5 全学調 (小6、中3時)	R4 県学調 (小5、中2時)	R5 全学調 (小6、中3時)	R4 県学調 (中2時)	R5 全学調 (中3時)
小学校	本県	105.1	99.7	107.2	97.6		
	伸び		-5.4		-9.6		
中学校	本県	97.7	98.9	97.4	94.1	93.2	92.1
	伸び		+1.2		-3.3		-1.1

※ 教科全体の結果に限らず、内容や領域、評価の観点、問題形式など、各学校や各先生方が重点とされている内容の「伸び」について比べることができます。そこに着目していくと、各学校や教師のそれまでの「取組」や「強み」、「弱み」を知ることができます。

2 実践編 「校内研修での活用」

◇これまでの分析の方法を基に、全国学力・学習状況調の分析について、校内研修を行きましょう。

- ① 問題分析から授業改善へ
- ② 正答率等の結果から授業改善へ
- ③ 正答率等の経年変化から授業改善へ

次のページからは、校内研修のシートを掲載しています。そのまま印刷して活用していただくこともできます。御活用ください。

校内研修シート① 「問題分析から授業改善へ」

◇各学校でも問題を
分析してみましょう。

取り出した問題：教科() 大問()の()
※平均正答率：自校()%、県()%

①「題材」や「配列」、「問い方」の工夫について、話し合みましょう。

②「解答類型」から、自校の子供たちのつまずきを確認しましょう。

③ 過去の調査問題の類似問題を探してみましょう。

・ () 年度の () 年生

(教科) 大問 () の ()

○学校総体で取り組む内容を
まとめましょう。

成果が見られた内容

○ 出題の趣旨や【問題番号】、自校や本県、全国の正答率、差などを書き入れましょう。

課題が見られた内容

○ 出題の趣旨や【関連番号】、自校や本県、全国の正答率、差などを書き入れましょう。

◇各学校でも、課題となった問題を抽出し、誤答例から考えられる授業での子供の姿と指導のポイントを書き入れましょう。

課題となった問題

誤答例から考えられる授業での子供の姿

●問題番号(大問 の)
 (自校 %、本県 %、全国 %)

授業改善のポイント

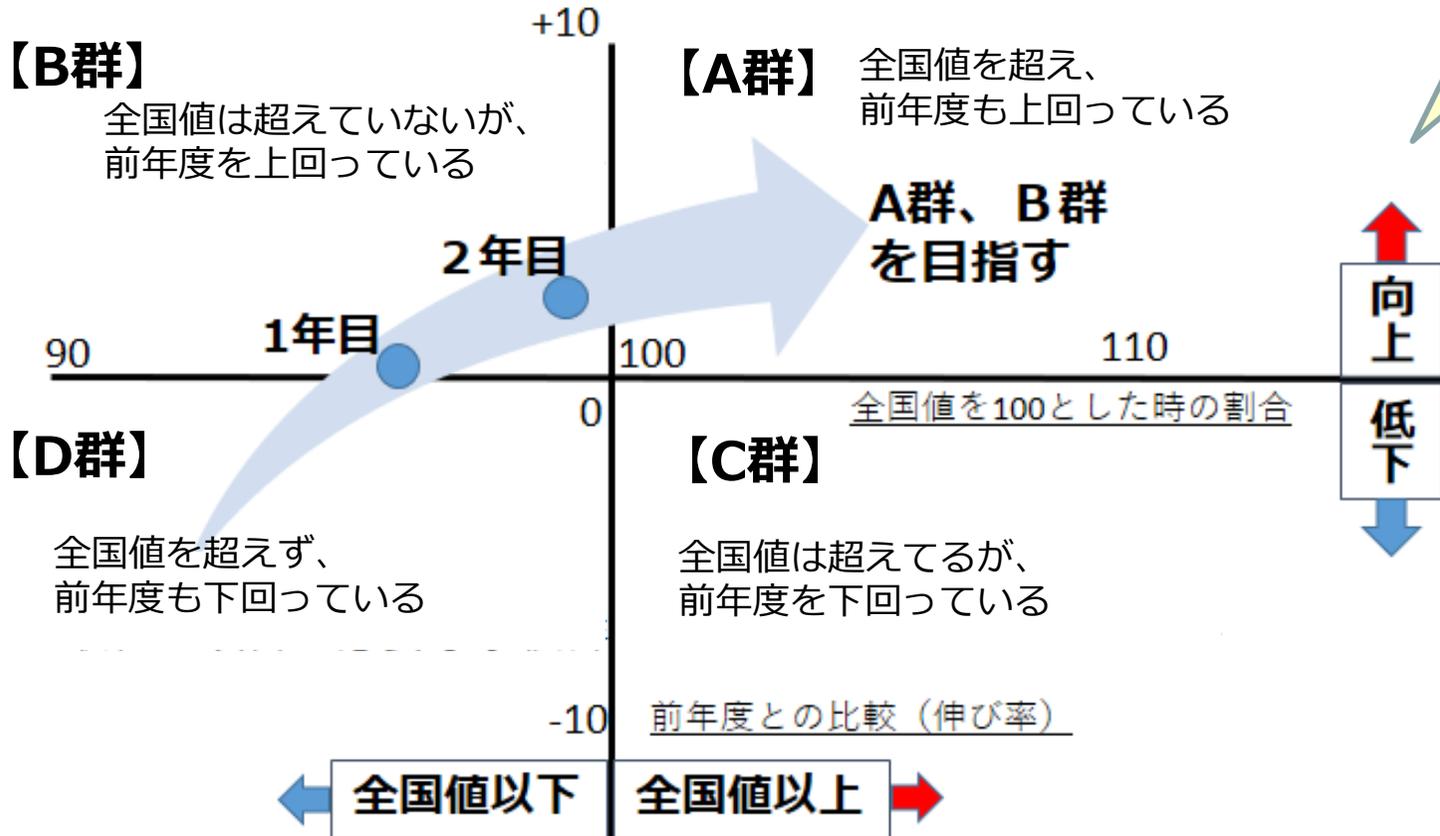
○

校内研修シート④ 「伸び」を分析する

※同一集団の伸びに着目した分類 「熊本の学び」アクションプロジェクトハンドブックより一部修正

学校群の4分類について

※横軸は、全国値を100とした時の割合、
縦軸は、前年度と比較した伸び率
(全国値を100とした時の割合の差)を算出。



①令和4年度の県学調の結果から、自校を【A群】から【D群】に配置すると、令和5年度全学調の結果では、自校は何群にあたるでしょうか。

群

②「伸び」を分析し、その要因を書きましょう。

③今後の取組を話し合いました。

※県学調と全学調では、全国の調査に参加している母体数は異なります。

校内研修シート⑤「正答率等の経年変化から授業改善へ」

※今回の結果と前年度の県学調の結果を書き入れましょう。（全国を100としたときの自校の割合など）

※教科全体の結果に限らず、学習指導要領の領域や評価の観点など、各学校や各先生方が重点とされている内容について比較してみましょう。

	比較する教科や内容（ ）	
	R4 県学調	R5 全学調
自校		
伸び		
本県		

～分析～



～今後の取組～